

今週の為替相場見通し(2020年7月6日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		107.04 ~ 108.16	107.52	106.50 ~ 108.50
ユーロ	(ドル)		1.1185 ~ 1.1302	1.1246	1.1100 ~ 1.1300
(1ユーロ=)	(円)		120.24 ~ 121.44	120.83	118.00 ~ 123.00
英ポンド	(ドル)		1.2252 ~ 1.2530	1.2485	1.2350 ~ 1.2450
(1英ポンド=)	(円)	*	131.96 ~ 134.71	134.20	132.50 ~ 135.00
豪ドル	(ドル)		0.6833 ~ 0.6952	0.6945	0.6910 ~ 0.7010
(1豪ドル=)	(円)	*	73.35 ~ 74.71	74.62	74.20 ~ 75.20

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 原田 和忠

(1)今週の予想レンジ: 106.50 ~ 108.50 円

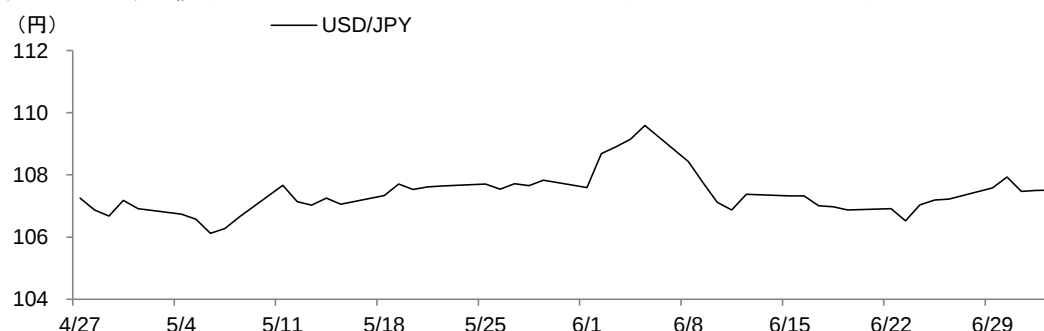
(2)ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週半ばに高値をつける展開。週初29日、107円台前半でオープンしたドル/円は、米国で新型コロナウイルスの感染第二波への懸念と経済活動再開への期待が交錯する中、一時週安値の107.04円を記録したが動意に乏しい推移。米国時間に米5月中古住宅販売仮契約件数の結果が好感され、米株が上げ幅を拡大した中で、ドル/円も107円台後半まで上昇した。30日は、中国全人代で香港国家安全法制が可決されたことでリスクオフの動きが進み上値は重かったものの、ロンドンの仲値にかけて一時108円付近まで上昇した。1日は、前半に日経平均株価の堅調推移にもサポートされて一時週高値の108.16円まで上昇し、3週間ぶりの高値を記録した。その後は、実需や投機筋のドル売りに押されて、徐々に値を下げる展開で、米国時間にかけて107円台前半まで下落した。2日は、米国時間の米6月雇用統計発表を控え、狭いレンジでの推移となった。米雇用統計は2か月連続での改善となり、一時107円台後半まで値を上げたが、その後は利益確定の売りが入って、上昇は一服した。3日は、米国祝日となり為替市場以外は休場となる中、取引は閑散となり終日小幅レンジで推移した。結局ドル/円は107.52円で越週した。

今週のドル/円は上値の重い展開を予想する。先月からの雇用統計を見ると、予想外に早く改善基調となっており安心材料につながっている。米株式市場もそれに呼応するように、最高値での推移となっている。一方で、経済活動は再開されつつあるものの、テキサス州をはじめとする一部の州では新型コロナウイルスの感染再拡大による第二波が押し寄せており、完全には新型コロナウイルスへのリスクを払拭するに至っていない。米株式市場は反発基調となっているものの、実体経済が追いついていない状況下では、ドル/円も相応の下値リスクを孕んでいると考えられる。むしろ、新型コロナウイルスの影響を無視するような株価の上昇は、将来への不確実性を高める結果となり得よう。かかる状況下、ドル/円は方向感の出にくい相場となっており、年度初からの106-110円レンジを抜けきれずにいる。テーマが新型コロナウイルス並びに米大統領選挙にある限りにおいては、このレンジを維持する可能性は高い。引き続き動意の薄い相場となろう。

(3)先週までの相場の推移

先週(6/29~7/3)の値動き: 安値 107.04 円 高値 108.16 円 終値 107.52 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 上野 智久

(1) 今週の予想レンジ: 1.1100 ~ 1.1300 118.00 ~ 123.00 円

(2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は週半ば以降に値が動く展開。週初29日に1.12台前半でオープンしたユーロ/ドルは欧州株の堅調推移にサポートされ1.12台後半まで上昇。その後は、ドル/円の上昇に伴って1.12台前半まで反落。30日は、節目の1.12を割り込む場面が見られたが、一巡後は1.12台半ばまで急反発、米国時間終盤にかけては米金利の上昇によって徐々にドル買いが優勢となり1.12台前半まで値を戻した。1日は前日に続き1.12を割り込み、週安値である1.1185を付ける場面も見られたが、米独で共同開発しているワクチンの有効性が確認されたことや、米6月ISM製造業景気指数の結果が好感されリスクオンの動きが強まる中、ユーロが買われ1.12台後半を回復。翌2日は、前日の流れを受けてじりじりと値を上げる展開で、一時週高値の1.1302まで上値を伸ばした。その後、米6月雇用統計の結果を受けて週高値付近まで上昇した局面も見られたが、徐々に利益確定の売りが優勢となるとユーロ/ドルは終盤にかけて1.12台前半まで値を下げた。3日はEU復興基金に関してオランダ首相が反対表明していることが伝わる中、1.12台前半での上値の重い時間帯が続いたが、終盤にかけてドル売りが強まり1.12台半ばまで値を戻し、同水準で越週している。

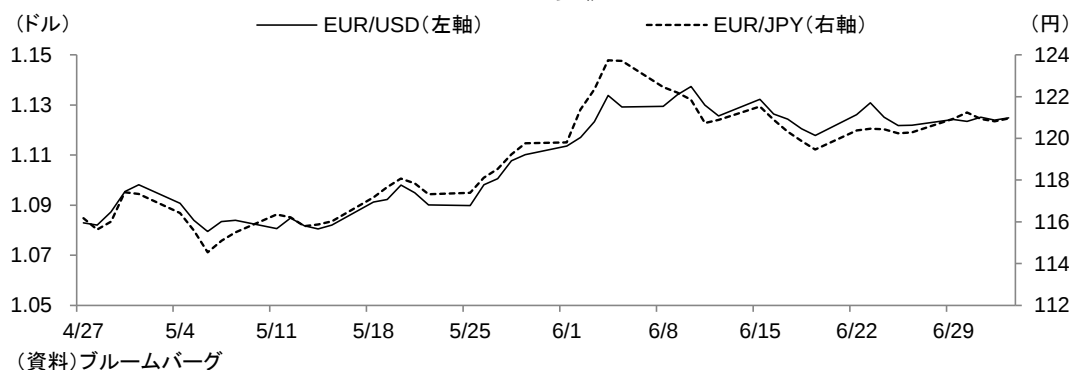
今週のユーロ/ドル相場は軟調な展開を予想する。まず、ユーロ圏の経済状況は米国と比較して芳しい状況とは言えない。そして金融政策としてもマイナス金利となっている中で、現実だけを積み上げるとユーロが積極的に買い進められる状況が見当たらないというのが正直なところ。とは言え、足元比較的しっかりと推移をしているのは、7500億ユーロ規模のEU復興基金などの財政政策などの影響もあるのだろうと思う。先月19日のEU首脳会談では折り合えず。そして今週は9日にユーロ圏財務相会合、10日にEU財務相理事会が予定されており、17-18日にEU首脳会議が予定される中で基金の合意に向けた地ならしが行われると言われている。しかし、全会一致が必要な同合意については、オランダ、オーストリア、スウェーデン、デンマークの「the frugal four(儉約4カ国)」が、条件の変更なしに態度を軟化させる展開は想定しにくく、加えてセンチノ・ユーログループ議長の退任を来週に控えている中で、事態が大きく進展することは期待できないのでは。一旦はユーロ/ドルは売り優勢の地合いを想定している。

(3) 先週までの相場の推移

先週(6/29~7/3)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1185 高値 1.1302 終値 1.1246

(対円) 安値 120.24 高値 121.44 終値 120.83



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.2350 ~ 1.2450 132.50 ~ 135.00 円

(2) ポイント【先週末までの回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は上昇。EU離脱後の将来関係を巡る交渉の行き詰まりなどを理由に、26日に、対ユーロで取引水準を一段切り下げ、目先は安値を追うかに見えたポンドだったが、下値を探ったのは週明け29日だけ。翌30日以降、早々に全面高に転じた。30日のポンド上昇は、同日、ジョンソン英首相が発表した大規模インフラ投資計画を好感したものと考えられた。同計画は、主に、参入障壁の撤廃や規制の緩和/簡素化などを梃子に、病院、道路、学校などの社会的インフラへの積極的な投資を誘導することを主眼に置いたものと思われたが、同日、ジョンソン首相は、(分かり易い当座の目玉プロジェクトとして)50億ポンドの投資計画も発表した。他にも、英中銀金融政策委員会のホールデン委員が、英経済のV字回復を示唆したことも、或いはポンド反発の追い風になったのかもしれない。その後、特段の材料も見当たらない中、ポンドは続伸し、2日には対ドルで1.2530、対円で134.70、対ユーロで0.9004とそれぞれこの間の高値をつけた。並行して、米南部の一部の州でCOVID-19罹患者数が急増したことなどを理由にドル指数(ICE)が水準を切り下げたことで、対ドルでのポンド上昇には勢いが加わったようにも見えた。2日発表された米6月非農業部門雇用者数は+480万人と空前の増加を示した。ドルは上昇に転じたものの、ドル買いの勢いは長続きせず、米市場が連休に突入したことも手伝い、週引けに掛けて主要通貨全般は方向感に乏しい膠着に陥った。

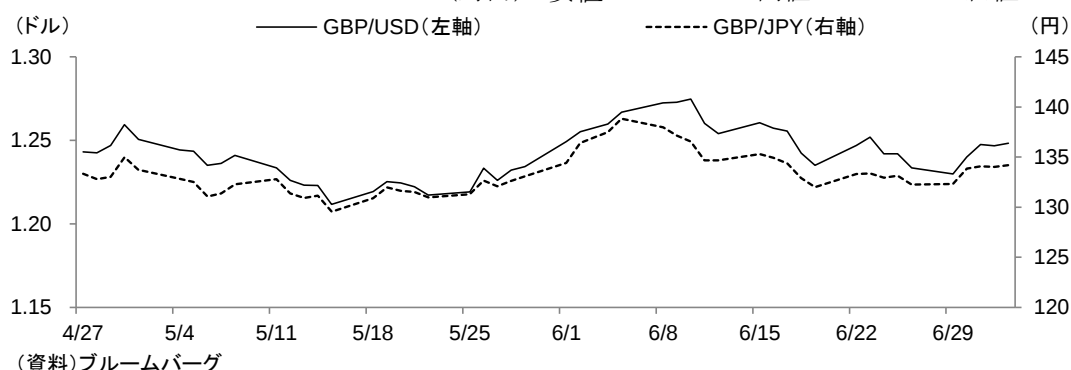
今週の英ポンド相場は、方向感を欠いた膠着を予想。対ユーロで底割れしたかに見えたポンドが、あっさり反発、従前の取引水準を回復したことで、テクニカルには目先のポンド反発も見込めなくはないが、敢えて積極的にポンドを買い上げるだけの理由を思いつかない。先月26日に英との将来関係交渉に消極的と読める発言をしたメルケル独首相は、1日にも「交渉の進展は極めて限定的」と述べ、交渉の前進に対する期待感を後退させた。英側の一部には、「7月に独がEU閣僚理事会議長国になれば(独の積極的な指導力を原動力に)交渉が大きく進展する」との期待感があっただけに、失望は小さくないのではないかと。今週発表予定の英経済指標などは小粒なものしかないが、8日(水)に予定されるスナク英財務相による経済(復興)計画の詳細発表には一定の注目を払いたい。上述インフラ投資計画を、ジョンソン首相は、「(ルーズベルト米大統領が世界恐慌後に実施した)ニューディール政策に匹敵する」と鼻息荒く発表した。メディアなどの受け止め方は、少なくとも現時点で、冷ややかに見える。ひとつには、既に、コロナ対策として1,000億ポンド単位の追加歳出を投入しており、財政健全性を損なわずに財政刺激策を打つ余地があるのか懐疑的な見方がされていることが理由。もうひとつ、現保守党政権には、(自民党との)連立政権時代に計上した、ロンドンからイングランド北部を結ぶ高速鉄道建設(HS2)計画において、当初計上した予算が膨張し、今年になって、やり掛けの建設工事を継続するか、放棄するか判断を迫られた(結論は「継続」という「前科」を持つことも、大規模投資計画に冷めた見方をさせる要因と考えられた。もともと期待が高くない分、失望させられるリスクも低いとは言えようが、仮にこの間のポンド上昇に、同計画が少なからず寄与していたのだとしたら、市場参加者をうならせるような大胆な計画の欠如がポンド反落につながる可能性もなくはなからう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(6/29~7/3)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2252 高値 1.2530 終値 1.2485

(対円) 安値 131.96 高値 134.71 終値 134.20



4. 豪ドル

金融市場部 グローバルFIチーム 大庭 泰典

(1) 今週の予想レンジ: 0.6910 ~ 0.7010 74.20 ~ 75.20 円

(2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.69台半ばまで上昇。29日の豪ドルは0.6860台で取引開始後、アジア時間は方向感なく狭いレンジ推移。NY時間に発表された米5月中古住宅販売仮契約件数が予想を大幅に上回ったことから、米ドルが買い進まれ一時0.6840台まで下落した。その後は小幅に買い戻され0.6866まで上昇。30日は0.6860台で取引開始後、中国6月PMIが製造業、非製造業共に予想を上回ったことから底堅く推移。豪ビクトリア州が新型コロナ新規感染者の急増を受けて一部地域のロックダウンを決定すると、リスクオフから売りが優勢となり、一週間振りの下値0.6833まで下落。NY時間に発表された米6月消費者信頼感指数が予想以上に堅調な結果となり、株価が上げ幅を拡大する中、終盤にかけて豪ドル買い戻しの動きが強まり0.69台まで上昇して引けた。7月1日は0.6900を挟んだ揉み合い推移。中国6月Caixin製造業PMIが6ヵ月振りの高水準となったが、豪ドルの影響は限定的だった。欧米時間に入り米独企業で共同開発しているワクチンに有効性が認められるとの報道が流れると、リスクオンの動きからドル売りが強まり、一時一週間振りの高値0.6944を付けるもすぐに反落。FOMC議事要旨ではYCCの導入に対して慎重な見方が示されたことで、米国債は売りで反応したが、為替相場の反応は薄かった。2日は0.69台前半を揉み合い推移。アジア時間は米6月雇用統計待ちで動意薄。NY時間に発表された米6月非農業部門雇用者数変化が予想を上回り2ヵ月連続で大幅に増加し、失業率も予想程悪化しなかったことから瞬間的に米ドルは売りで反応。豪ドルは一時0.6950を上抜けた。しかし、米国内の感染拡大にかかる報道から米ドル買い戻しの動きが強まり、豪ドルは0.6902まで下落。3日は米独立記念日の振替休日で、ほとんどの米企業が休日扱いとなったことに加え、主要な経済指標の発表もなく、狭いレンジ推移後0.6945で越週した。

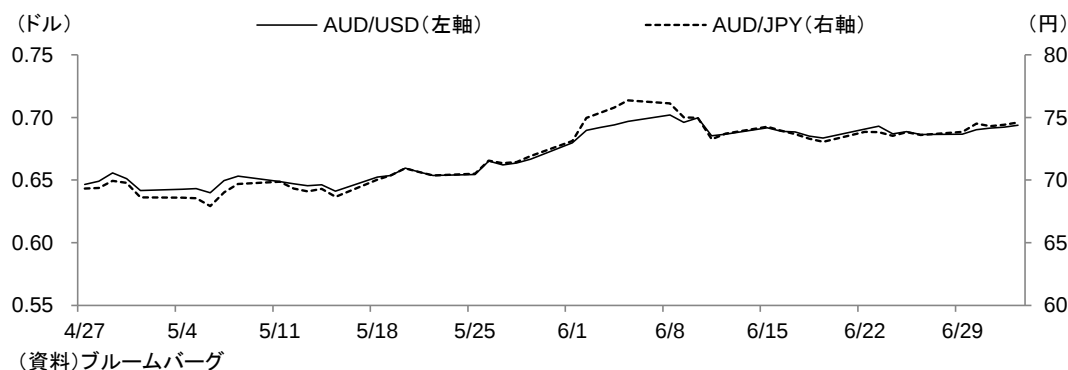
今週の豪ドル相場は底堅い推移を予想。7月までに経済活動の再開を目指し、各州6月から一段の規制解除を始めた。一部地域でロックダウンが決定するも、経済活動再開への期待と鉄鉱石などの価格上昇を追い風として上昇基調を強めており、その流れは今週も継続すると予想。今週の主な経済指標は7日(火)豪RBA金融政策理事会、9日(木)中国6月消費者物価指数、中国6月卸売価格指数が控えている。RBAは3会合連続で政策金利を過去最低の0.25%に据え置くと同時に、3年物国債利回りが0.25%程度で推移するように国債や政府機関債の買入れを実施しており、しばらくは現行水準を維持するであろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(6/29~7/3)の値動き:

(対ドル) 安値 0.6833 高値 0.6952 終値 0.6945

(対円) 安値 73.35 高値 74.71 終値 74.62



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。